

人権だより

No.332 (2026. 2)

研究倫理について

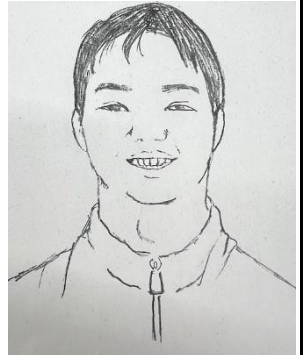
がっこうみりよくすいしんか おがさわら こうた
学校魅力推進課 小笠原 康太

4、5年生の皆さんは毎週総合的な探究の時間で課題研究を行っています。2月17日に研究発表会があるので、しっかり準備を進めていきましょう。今日は研究を行う際に大切な視点である、研究倫理について紹介しようと思います。

私たちの社会は、医学や科学技術の発展によって大きな恩恵を受けてきました。例えば、新しい薬や治療法、便利な技術の多くは研究の積み重ねによって生まれています。しかし、その研究の過程で人の人権が軽視されることがあってはいけません。そこで、研究の成果だけではなく、研究に関わる一人一人の尊厳と権利を守るための重要な考え方である研究倫理が出てきました。

過去の研究では、研究の名の下に深刻な人権侵害が行われていました。本人の同意を得ない人体実験や特定の集団を差別的に扱う研究などが、科学の発展を理由に正当化されていたのです。そのような研究は、研究対象となった人々の命や尊厳を犠牲にしたものであり、決して許されるものではありません。たとえ研究の目的がどれほど崇高なものであったとしても、人を単なるデータや手段として扱うことは、人権の否定につながります。一方、現代の研究では、インフォームド・コンセントや個人情報の保護、データの盗用の禁止や著作権侵害の防止など、個人の権利を尊重することが、研究によって得られる利益よりも重要視されています。この取組により、研究に関わる人が自分の意思で判断し、安全と尊厳が守られます。さらに、研究者には公正な研究のために専門性だけでなく、他者の立場に立って考える倫理観や自らを厳しく律する姿勢も求められています。このように、現代では研究で人権が侵害されないようになってきました。

私は、研究倫理は研究者だけの問題ではなく、研究の成果を利用する私たち一人一人にとっても重要な問題だと思っています。人権を尊重した研究こそが、人々の幸せに貢献する科学を生み出す社会を作る。そのために、研究の進歩と人権の尊重は対立するものではなく、ともに守られるべき価値であることを私たち一人一人が理解することや、研究倫理の問題に関心を持つことが大切だと思っています。



【保護者の声】 文章を読んだPTA 人権委員の方の感想です。

以前は人を対象とした研究を行った際は、常に“対象者が良い方向へ向かうように”支援を行いました。また他者の研究論文は“学んだ事を活用して笑顔になる人を増やしたい”という視点で読みます。“人を大切に思う心”は研究において一番重要なポイントであり、研究を発展させるものだと思います。(5年生保護者)

【人権委員の声】

人を助ける研究をするために、人権を侵害するのは本末転倒だと思いました。今はそのようなことがなくなってきているのでよかったです。(4年生 人権委員)

過去に人権を侵害するような研究があったことに驚いた。薬や医療の発達のために人権を侵害することはダメであると思う。確かに、何かを成功するために、ある一定のものを犠牲にすることは仕方がないことだと思うが、人権は人が生きる上で、切っても切り離せないものなので、何かの権力や行動によって侵されることは絶対にあってはダメだと思った。(5年生 人権委員)

科学技術の発展は私たちの生活を豊かにしてくれますが、それが人々の幸せに貢献するためには研究だけでなく、人権、という土台が必ず必要だということに改めて気付かされました。研究者だけでなく、それらを利用する私たち自身も、公正な研究を支え、お互いの人権を尊重するために、自分の姿勢を見直して、改善していくべきだと感じました。他人事ととらえず、真摯に向き合う人が増えれば、社会全体でそれぞれの人権を尊重することが自然とできていくと思います。(5年生 人権委員)

人権教育相談課より

11/14(金)に行われた人権集会の3年生の感想文を紹介します

○今回の授業を通じて、改めて差別意識をなくすことの大切さを知ることができた。人間は口ではどうしても言えてしまう生き物なので、なおさら本当の意味で人権問題について考えていく必要があると思った。これから先、どんな差別の場面に出会うか分からないので、常に正しい知識を取り入れ、差別と闘える人間でありたいと思った。これからもしっかり学んでいきたい。

○実際に自分事として考えるのはすごく難しいことだけど、想像して相手に寄り添える人になることが私たちにできることなのだと分かった。日々の人との関わりをより一層大切にしていき、いざという時に頼れる、安心できる存在になれたらいいと思った。

